

(ご参考)

**マツダ株式会社**  
**2022年3月期 第3四半期 決算発表**  
**主な質疑応答**

**1. 2022年3月期 第3四半期累計実績を総括してほしい。**

第3四半期累計のグローバル販売台数は、対前年同レベルの93万台となりました。上期は前年を上回る販売でしたが、東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大に伴う取引先さまからの部品供給および半導体供給不足の継続により、第3四半期の販売台数は前年を下回りました。

連結売上高は2兆1,624億円、営業利益は対前年957億円増の637億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同1,076億円増の294億円となりました。連結出荷台数は対前年3%増の68万8千台でしたが、前年下半期からの収益体質改善に継続して取り組んだ結果、各利益項目で1,000億円レベルの改善を達成しました。また、第3四半期では、減産影響により出荷台数は対前年30%減となり、原材料価格の高騰などの減益影響もありましたが、販売の質的改善、コスト改善、固定費効率化を推進した結果、営業利益は対前年31億円増の240億円、親会社株主に帰属する当期純利益は55億円と黒字を確保しました。なお、8月から10月の東南アジアでのコロナ感染拡大による減産影響として、第3四半期に、89億円を特別損失に計上しました。

**2. 通期利益見通しを上方修正した要因を説明してほしい。**

依然として不透明な調達環境を踏まえ、11月公表に対し、連結出荷台数は103万台から98万台に見直しました。一方で、第3四半期までの収益改善の進捗等を踏まえ、営業利益を650億円から820億円に、親会社株主に帰属する当期純利益を410億円から550億円に上方修正しました。売上高営業利益率は2.6%となる見通しです。台当たり利益の改善や固定費効率化により、継続した損益分岐点台数の低減が進捗しています。外部環境の悪化に対してすべての領域で収益改善の取り組みを強化し、本格的成長に向けた強固な収益基盤への変革が着実に進んでいます。

**3. 半導体不足による減産影響が継続する中、通期のグローバル販売台数計画は達成可能か？**

コロナ感染拡大や半導体不足に伴う減産影響に加え、半導体の供給が回復する時期が不透明であることを踏まえ、グローバル販売台数見通しを、11月公表から7万1千台引き下げ124万台に見直しました。

不透明な環境は継続する見通しですが、これまで行ってきた週次での各市場の販売・在庫状況をモニターする活動を今後も継続します。各市場に対して必要な在庫の確保や、受注いただいているお客さまを可能な限りお待たせしないことを常に念頭に置きながら、計画達成を目指していきます。

#### 4. 新商品の導入を予定しているが、導入スケジュールや期待値を教えてください。

昨年までは中期経営計画において、ビジネスの質における基盤を固めてきましたが、2022 年は、この基盤の上に新商品の導入を行います。まず、米国ハンツビルの新工場において、北米向け新型クロスオーバーSUV「CX-50」の生産を1月より開始しました。今春より販売開始する計画です。アウトドア志向のデザイン・機能性・ユーティリティなど北米のお客さまのニーズを反映し、マツダの北米ビジネスを成長させる原動力となるモデルです。

さらに、ラージ商品群の第1弾となる「CX-60」の生産を防府工場で今期中に開始します。走る歓びとエミッション性能を高次元で両立しかつ様々な電動化パワートレインの選択肢をご提供します。

継続的な販売の質的改善と共に、これら新たなクロスオーバーSUV 商品群の拡充により、中期経営計画の実現を加速していく本格的成長のステージへと移行していきます。

以上